

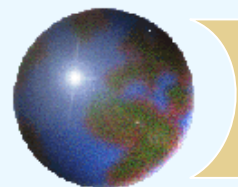
AIとともに生きるための 情報リテラシー

梅澤 貴典

2023年10月25日(水)

図書館総合展フォーラム

(日外アソシエーツ)



自己紹介（名刺交換に代えて）



梅澤 貴典

Umezawa Takanori

中央大学 職員

都留文科大学 非常勤講師
（「図書館情報技術論」担当）



umetaka@gmail.com



umezawa.takanori



umetaka7



『ネット情報におぼれない学び方』
（岩波ジュニア新書）

目次・試し読みはこちら →

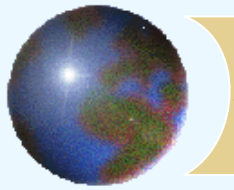


【研究テーマ】

- 情報リテラシー
- 初年次教育
- 図書館情報学
- 探究学習支援
- アカデミック・スキル

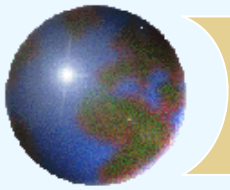
論文・発表の実績等はこちら
（researchmap） →





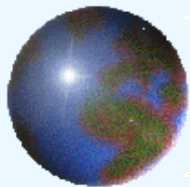
本日の3つのメッセージ

- ・ ネットとAIの時代に、なぜ読書？なぜ図書館？
 1. 「価値ある情報は、基本として**有料**」が大原則
 2. **一次情報**（当事者が発する情報、原典）で学ぶ
 3. 真偽を見極め、世界を見渡す **知識体系** を育てる



ChatGPTとは？

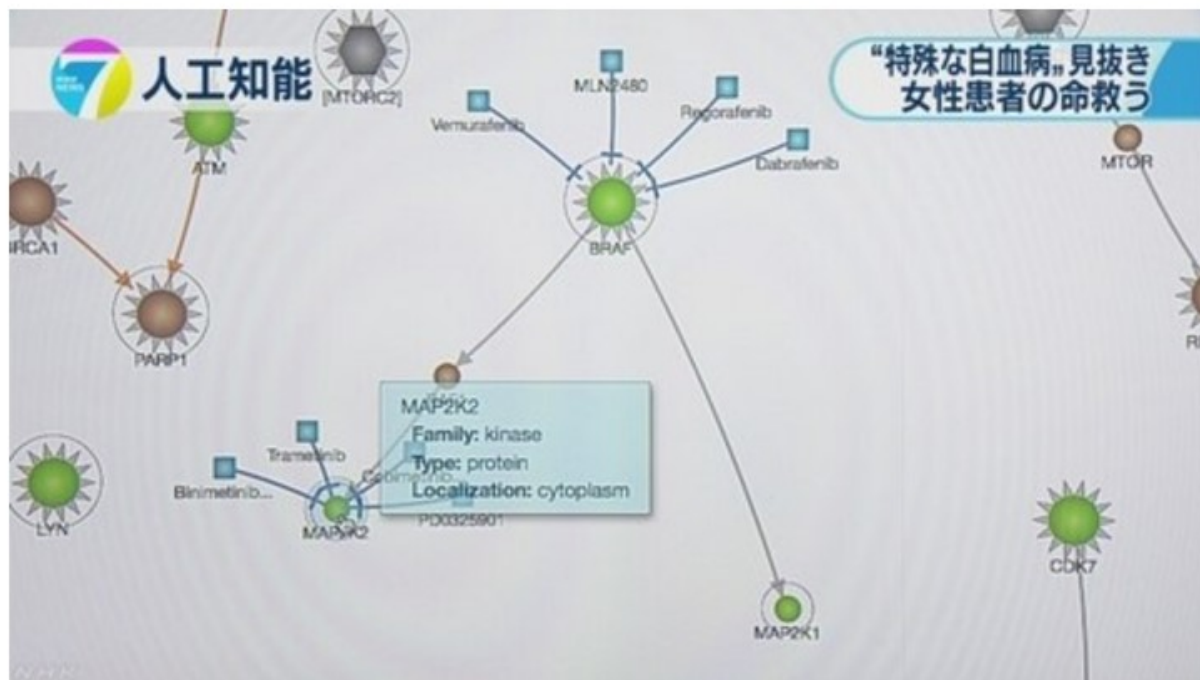
- ・大規模言語モデル（単語の並びの出現確率分布）による自動会話プログラム。**真偽の判断はしない（できない）。**
- ~~2021年9月時点のネット情報しか学習していない。~~
→ 2023年9月27日、ネット閲覧の開始を発表。
- ・プログラミングや文案の作成、翻訳には有用になり得るが、**調べごと（事実の調査）での利用は、現時点では問題あり。**
 - 誤情報を鵜呑みにして発信 → 捏造・改竄になり得る。
 - 他者の著作物が含まれており、無意識に剽窃の危険も。
- ・質問の工夫など、活用には「幅広い基礎知識」が必要。
 - 学校での学び・読書・見聞・対話が、やはり大切。



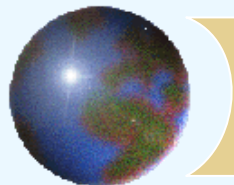
AIにしかできない仕事 / AIにはできない仕事

2016年08月04日(木)

人工知能 病名突き止め患者の命救う 国内初か



東京大学医科学研究所が導入した2000万件もの医学論文を学習した人工知能が、専門の医師でも診断が難しい特殊な白血病を僅か10分ほどで見抜き、治療法を変えるよう提案した結果、60代の女性患者の命が救われたことが分かりました。人工知能は、このほかにも医師では診断が難しかった2人のがん患者の病名を突き止めるなど合わせて41人の患者の治療に役立つ情報を提供していて、専門家は「人工知能が人の命を救った国内初のケースだと思う」と話しています。



大学等における生成系AIの取り扱い

各 国 公 立 大 学 法 人 担 当 課
大学を設置する各地方公共団体担当課
各 文 部 科 学 大 臣 所 轄 学 校 法 人 担 当 課 御中
大学を設置する各学校設置会社担当課
独立行政法人国立高等専門学校機構担当課

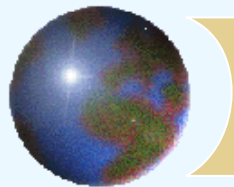
文部科学省 高等教育局 専 門 教 育 課
大学教育・入試課

大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて（周知）

昨今、ChatGPT 等に代表される高度な生成 AI の利用者が急増しており、大学・高等専門学校（以下「大学・高専」という。）についても、教育活動における活用可能性やリスクなど正負両面の影響も指摘されているところです。これに対し、多くの大学・高専では、既に生成 AI の教学面の取扱いに関する指針や考え方等（以下「指針等」という。）の策定も進められています。

大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについては、それぞれの教育の実態等に応じ、今後の状況変化を踏まえて指針等の内容を見直すことも含め、主体的に対応いただくことが重要と考えています。文部科学省においては、大学・高専の対応の参考となるよう、既に各大学において策定されている指針等の内容や有識者の見解等を踏まえ、生成 AI に関して利活用が想定される場面例や留意すべき観点等について、別紙のとおりまとめました。各大学・高専におかれては、本資料も参考に、引き続き生成 AI の取扱いに関して適切な対応を図っていただきますようお願いします。

本件について、国公立大学法人におかれてはその設置する大学等に対して、独立行政法人国立高等専門学校機構におかれてはその設置する高等専門学校に対して、大学又は高等専門学校を設置する地方公共団体及び文部科学大臣所轄学校法人におかれてはその設置する大学等に対して、大学を設置する学校設置会社におかれてはその設置する大学に対して、それぞれ周知されるようお願いします。

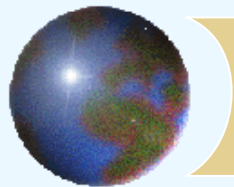


大学等における生成系AIの取り扱い

「大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて」
(文部科学省 事務連絡) (抜粋)

(留意すべき観点)

- 生成AIと学修活動との関係性、成績評価
- 生成AIの技術的限界
(生成物の内容に虚偽が含まれている可能性)
- 機密情報や個人情報の流出・漏洩等の可能性
- 著作権に関する留意点



「なぜ、調べ・考え・発信するのか？」

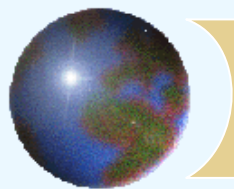
Q. (高校生からよくある質問)

「**探究**活動なんて、**どうせ受験に関係ない**のでは？」

→従来の「小論文」以上に
課題解決型の入試が生まれており、

「**情報を集め、読み解き、自分の言葉で意見を伝える力**」

がますます求められています。



「なぜ、調べ・考え・発信するのか？」

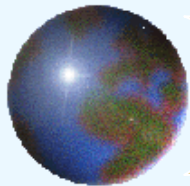
【例】 お茶の水女子大学「新フンボルト入試」

「本総合型選抜は論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力、独創性など、従来型のペーパーテストでは測定しにくい種類の能力や、これまでの活動や学習の成果も含めて受験者の潜在的な力（ポテンシャル）を丁寧に見極めるユニークな入試です。

（中略）

第2次選考は、文系の「図書館入試」、理系の「実験室入試」により、単なる知識量の多寡ではなく、その知識をいかに「応用」できるかを問います。「図書館入試」は、昼食や休憩もまじえて6時間も図書館にこもって一つのテーマについて小論文を作成します。この風変わりな、しかし受験することで「何かをえられる」入試に是非トライして欲しいと願っています。」

<https://www.ao.ocha.ac.jp/ao/index.html>



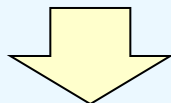
「ネットで何でも分かる」時代に、なぜ学ぶのか？



鎖付きの本

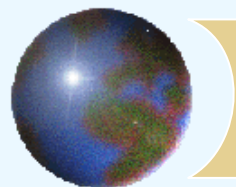
(Guildhall library, London)

かつて知識は「所有」自体に意味があり「独占」することに価値があったが、現在は逆。創造したアイデアや知識は広く発信することで新たな価値を生む。



「歩く事典」になるよりも、
「問題解決にはどんな情報が必要か」
「どこをどう探せば、求める情報が見つかるか」
「誰に訊けばより良いか」を推理する能力が必要。

→探究活動で、自由闊達な応用力を育てる。



高大接続改革がもたらす変化

高校

入学試験

大学

・知識・技能

・マークシート式
・短い論述式
・小論文
・面接試験

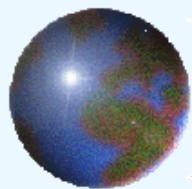
・学歴シグナリング
(偏差値で序列化)
・殆どが4年で卒業
・社会からの批判

・知識・技能
・思考力・判断力・
表現力
・主体性・多様性・
協働性

・自由参照式論文
(知識量→活用能力)
・プレゼンテーション
・グループワーク

3ポリシーの明示
・入学者受け入れ
・教育課程編成・実施
・学位授与

ウォッシュバック効果



図書館が、「生きる力」を育てるために

新聞・雑誌・統計・データベースなど

研究支援

学修支援・
情報リテラシー教育

課題研究

調べ学習

読書週間・
感想文コンクール

大学図書館・
専門図書館

連携

連携

学校図書館

連携

公共図書館

読み聞かせ
お話し会
ブックトーク

物語・小説・文学・伝記・随筆など

成長の時間軸